

2019 年度 第 3 回 一般社団法人日本疫学会理事会 議事録

日時	2019 年(令和元年)10 月 25 日(金)13:30-16:30
場所	高知会館 飛鳥 〒780-0870 高知県高知市本町 5-6-42
出席者	(順不同、敬称略) 理事:祖父江友孝(理事長)、玉腰暁子(副理事長)、岡村智教、栗山進一、 若井建志、近藤克則、中山健夫、金子聰、安田誠史、松尾恵太郎、 井上真奈美、尾島俊之、井上茂、本庄かおり、郡山千早 [一部 Web 参加] 三浦克之(副理事長)、片野田耕太、田中純子 監事:西信雄、横山徹爾 学会事務局:喜多村祐里(事務局長)、西野雅子、糟谷里美
欠席者	理事:曾根博仁、小橋元
陪席	選挙管理委員会委員長:北村明彦

- 理事会に先立ち、祖父江理事長より、理事・監事 17 名の出席により理事会が成立していることが確認された。

<協議事項>

1. 2019 年度第 2 回一般社団法人日本疫学会理事会議事録(案)は承認された。
2. 2019 年度事業報告(案)について、祖父江理事長より説明があり承認された。
2019 年度収支予想について、西野事務局職員より説明があった。上級疫学専門家申請数の予想があたり収入がほぼ予算どおりであった。第 29 回学術総会の収支は約 348 万円プラスであり、準備金 150 万円と合わせて約 500 万円の黒字であったこと、科研費の次年度繰越や疫学専門家認定証の次年度発行等を除くとほぼ予算どおりの収支予想である。なお、学術総会の収益は準備金と合わせて国際化基金に入れることが承認された。学術総会の参加者が増加しているため、今後はもっと広い会場を用意する必要があるとの意見があった。予算額と決算額の差異に誤りがあるとの指摘があり、修正してメールで回覧することになった。
3. 2020 年度事業計画(案)について、祖父江理事長より説明があり承認された。
2020 年度予算書(案)について、祖父江理事長から次の説明があり、2020 年度予算書(案)は承認された。
 - 疫学専門家申請登録料は、疫学専門家 200 人、上級疫学専門家 100 人で見積もっている。
 - 5 年間もらっていた JE 国際情報発信強化の科研費が 2019 年度(2020 年 3 月まで)で終了するため、新規の補助金収入は予算に計上していない。

- 国際化推進委員会の事業計画について 200 万円の支出が承認されたので、国際化基金を取り崩すことが認められた。
 - 疫学専門家認定制度の発足にともなう事務局業務の増加に対応するため、アルバイトの増員を予定しており、予算に計上している。
4. 疫学専門家・人材育成委員会の活動について、尾島委員長から委員会全体の活動報告があり、井上茂試験作成 WG 長から疫学専門家の筆記試験作成状況について、本庄疫学教育促進 WG 長から、今年もサマーセミナーが盛況で、参加者 85 名（内非会員 30 名）、新規入会が 20 名あった、初めての企画として第 30 回学術総会においてプレセミナーを実施する予定との報告があった。また、井上茂理事から社会医学系専門医協会関連の活動状況について報告があった。
- 上級疫学専門家認定審査の基準や、以下の認定条件の解釈について討議が行われ、最終的には委員会の判断に委ねることになった。結果発表は 10 月 31 日の予定であるが、委員会での確認作業に時間を要することから、延期を検討中であるとの説明があった。（疫学専門家・人材育成委員会）
- 疫学研究の主導
 - 2 件以上（1 件以上は日本学術振興会科研費、厚生労働科学研究費補助金、AMED などの公的な競争的研究費）を研究代表者として実施していて、かつその内容が疫学研究の主導ができると認められること
 - コンサルテーション
 - 2 件以上のコンサルテーション対応を実施していて、かつその内容からコンサルテーション対応ができると認められること
 - 疫学者の育成指導
 - 2 件（2 人）以上の疫学者の育成・指導実績があり、かつその内容から疫学者の育成・指導ができると認められること
5. 喜多村総務委員長より、次の活動報告と提案があった。
- 旅費・謝金規程は、会員専用ページに公開することが提案され承認された。
 - 「学術総会規程」を「学術総会細則」とすることについて提案があり承認された。なお、多様性（ダイバーシティ）委員会からの提案で「学術総会の運営においては、託児所を原則として設置するものとする。」を追記した。これについて「原則として」は不要との意見があり、削除することになった。
 - 名誉会員の推薦に関する申し合わせ事項（非公開）の中で「評議員・代議員を 10 年以上」の条件は、事務局の負担軽減のため削除することになった。
 - 永久会員制度の要望があったが継続審議となった。
 - 休会のメリットが少ないので、これまで送っていなかったメルマガを配信することになった。また、疫学専門家認定制度細則の更新時の規定に、退会し

た場合には認定が取り消されることが定められているが、休会については言及がなく、「休会の場合は留保されること」を追記いただきたいと要望があり、疫学専門家・人材育成委員会で検討することになった。（総務委員会）

6. 奨励賞受賞候補者について、今回は応募者が 14 人と多く、下記のとおり 5 人を推薦するとの説明があり、承認された。（敬称略）

- 奥村 泰之（東京都医学総合研究所）
- 小原 拓（東北大学 東北メディカル・メガバンク機構）
- 西浦 博（北海道大学大学院医学研究院）
- 村山 洋史（東京大学高齢社会総合研究機構）
- 目時 弘仁（東北医科薬科大学）

また、奨励賞受賞者推薦様式修正案は、本学会における貢献活動を加え、また、審査に必要な共通の情報が得られるように推薦様式を修正したいとの説明があり、承認された。

7. 功労賞受賞者・名誉会員の推薦

下記のとおり功労賞受賞者と名誉会員の推薦があり、承認された。（敬称略）

功労賞受賞者：

- 津金 昌一郎（国立がん研究センター社会と健康研究センター）

名誉会員：

- 古野 純典
- 佐々木 隆一郎
- 三浦 宜彦

8. 2020 年度の新体制（2020 年 2 月 21 日の社員総会から）について、祖父江理事長から、次期指名理事、退任される理事の後任となる委員長・WG 長が推薦され、下記のとおり承認された。また、その他の委員長・WG 長については継続いただくことになった。（敬称略）

指名理事：

- 片野田 耕太（継続）
禁煙推進学術ネットワーク WG 長
- 松尾 恵太郎（継続）
JE 編集委員会委員長
- 上原 里程<京都府立医科大学>（新規）
多様性（ダイバーシティ）促進委員会委員長（田中純子委員長退任）

- 神田 秀幸<岡山大学> (新規)
既存疫学研究データ資源化・共有・活用 WG 長 (近藤克則 WG 長退任)
- 関根 道和<富山大学> (新規)
メディア連携 WG 長 (金子聰 WG 長→広報委員会委員長)

委員長の交代：

- 金子 聰
広報委員会委員長 (中山健夫委員長退任)

9. その他の協議事項

- 第 32 回学術総会について、近藤克則理事が推薦され、承認された。
- 福島県民健康調査甲状腺検査に関する日本疫学会からの声明について提案があり、出すかどうかを含めてワーキンググループを作って検討することになった。
- 若手の会からの「社会医学・予防医学研究に対する意見・要望」について、継続的に意見交換を行うことになった。
- 2020 年度第 1 回理事会 (新・旧理事引き継ぎ) を下記の日程で開催することが承認された。
日時：2 月 20 日 (木) 18：00～20：00
場所：京都大学医学部 G 棟 セミナー室 A
- 2020 年第 4 回社員総会を下記の日程で開催することが承認された。
日時：2 月 21 日 (金) 17：00～18：00
場所：京都大学百周年時計台記念館 大ホール
- 各種委員会@第 30 回学術総会の開催について日程調整をすることとなった。
- 理事会メール審議の確認を行った。

<報告事項>

1. 各委員会等から次の報告があった。

1) 選挙管理委員会の北村委員長より、次の報告があった。

代議員選挙、選出理事・監事選挙、理事長 (代表理事) 選挙を予定どおり行った。

➤ 代議員選挙

北海道・東北 23 名、関東甲信越 32 名、東京 47 名、中部 28 名、近畿 36 名、中国・四国 12 名、九州・沖縄 17 名、合計 195 名が選出された。なお、九州・沖縄ブロックは、候補者が定数と同数だったので、無投票当選となった。

- 選出理事・監事選挙
北海道・東北2名、関東甲信越2名、東京3名、中部2名、近畿3名、中国・四国1名、九州・沖縄2名、合計15名の理事と監事2名が選出された。なお、北海道・東北、東京ブロックの選出理事選挙と監事選挙は、候補者数が定数と同数だったので、無投票当選となった。
 - 理事長（代表理事）選挙
立候補者が一人のため、信任投票とし、次期理事長候補は、祖父江友孝（大阪大学、敬称略）に決定した。
- 2) 疫学リソース利用促進委員会について、次の報告があった。
- 岡村委員長から、委員会全体について報告があり、本委員会は法制度とのかかわりが大きいのが、要望書を出すにあたり行政の窓口が分かりにくいので、情報収集したいとの補足があった。
 - リンケージ基盤推進WGについて、若井WG長より、がん登録における現状と課題についてドキュメントを作成し、ご意見をいただく形でまとめたとの報告があった。
 - 倫理問題検討WGについて栗山WG長より、次の検討内容について、現状認識と課題が示された。
 1. 現行の倫理指針からみて、緊急時の感染症発生などの際の同意の取り方はいかにあるべきか。
 2. 現行の倫理指針からみて、コミュニティへのインターベンションの倫理的課題は何か。
 3. ゲノム解析と関連する倫理的課題の検討：結婚、就職、生命保険加入など
 4. 遺伝情報を研究参加者に返すことの重要性と課題（特に子どもに関する代諾同意の有効性を含め議論が必要である。）
 5. 将来を見据えた説明と同意、多くの研究者が研究を行うことに関する課題
 6. 「臨床研究法」に関する課題また、臨床研究法の見直しに関する要望書（日本医学会連合臨床研究法のあり方検討委員会）について説明があり、本学会としては、この要望書がどのように通知され、どのような法改正になるかについて、注視し、意見を出す必要があれば協議することになった。
- 3) 学会等連携推進委員会の曽根委員長に代わり片野田禁煙推進学術ネットワーク連絡WGの片野田WG長より、Web参加で次の報告があった。

- 多様性（ダイバーシティ）促進委員会が作成した会員登録情報を用い、会員の専門分野について情報を把握しているため、教育講演等の依頼があった際に迅速に紹介できるようになった。
 - 共催シンポジウムの開催状況について、順調に件数が増加しているとの報告があった。
 - 日本医学会連合社会部会が企画する若手リトリート（若手研究者を中心とした合宿形態の研究交流集会）について、本学会の若手の会の活動が活発であるため、曾根委員長がシニアオブザーバー、若手の会の桑原恵介世話人代表が事務局長として実行委員会を立ち上げ、2020年3月に合宿を開催する予定との報告があった。
 - 日本開催の第22回国際栄養学会議（ICN2021）における栄養疫学分野の特別講演にハーバード大学のWalter Willett教授を招聘するにあたり、本学会に共催に際して、1口5万円、可能であれば2口以上の支援金の依頼があった。⇒1口5万円の支援は承認され、本学会会員が、主催する会員と同額の参加費で参加できる等の優遇措置を設けてもらえるなら2口支援することになった。
 - 禁煙推進学術ネットワーク連絡WGについて、6月25日に開催された禁煙推進学術ネットワーク定例会議について、米国で電子タバコの規制の検討が表明されたこと、たばこ関連企業からの資金による研究について制限を設ける学会が増えているとの報告があった。また、喫煙の健康影響およびたばこ対策に関してシンポジウムを企画していたが、第30回学術総会に枠がないため開催しないことになった。
- 4) 多様性(ダイバーシティー)促進委員会の田中委員長より、Web参加で次の報告があった。
- 2019年6月に会員情報改訂版の登録を開始した。
 - 新たな会員情報データ（2019年10月1日現在1176件）にもとづき一次集計を行った。集計の段階で、Web入力フォームにおいて：「所属機関の国名」「現在居住地の国名」「使用する言語」「学位」についてデフォルト値である最上位の単語が選ばれている可能性があるため修正を要する。
 - 第30回学術総会における託児所の設置について確認を行った。今後は演題登録開始時点で、託児所の設置（予定だけでも）について掲載して欲しい。
- 5) 広報委員会

- 中山委員長より、次の報告があった。
 - ニュースレター54号が発行された。
 - 一般向けコーナーでは、引き続き疫学用語についてのアクセス数が多かった。
 - プライバシーポリシーの「3 個人情報の収集」に「アクセスログおよびCookieについて」を追記した。英語版のPolicyページにも掲載予定。
 - ホームページに名誉会員を掲載してはどうかと提案があった。
 - メディア連携WGの活動について、金子WG長より、第30回学術総会でメディア連携をテーマにしてシンポジウムを開催予定であること、また、医療関連メディア宛「疫学専門家認定制度の開始について」の文書を記者クラブに送付したとの報告があった。
 - 疫学リテラシー普及促進WGの活動について、安田WG長より、「国民の疫学研究に対する理解と信頼の現状把握」について、松田委員が厚労科研課題で実施したネット調査の研究報告書を入手したので、本WGで考察する予定である。また、八谷委員が委員長を務める学術会議の分科会で行っている「学習指導要領へ疫学の考え方を反映させるための検討」の報告書が秋に公表予定なので、調査資料をご提供いただき、2月の理事会で報告したいと説明があった。
- 6) JE編集委員会について松尾委員長から次の提案と報告があった。
- JE編集委員会委員の変更について以下の提案があり承認された。なお、国際AEの補充が課題であるとの補足があった。
 - 任期或は都合により、以下7名の先生方が編集委員を退任。
(敬称略)
金子聰 (長崎大学、3期)
鈴木貞夫 (名古屋市大、3期)
伊藤秀美 (愛知県がんセンター、3期)
石崎達郎 (東京都健康長寿医療センター、2期)
手良向聡 (京都府大、2期)
Rob van Dam (シンガポール大、2期途中)
Derek Smith (James Cook大、1期)
 - 以下5名を来年より新AEとして迎えたい。
辻真弓 (産業医大、小児・環境疫学)
和田恵子 (岐阜大、がん・小児)
伊藤ゆり (大阪医大、がん・記述疫学)

高橋邦彦（名大、生物統計・疫学方法論）

桜井良太（東京都健康長寿医療センター、老年疫学）

- JE Impact Factor 2018: 3.078, 5yIF 3.431
 - アクセプト率は、約3割
 - COIに関して、ICMJE 準拠を12月より実施予定。ICMJEのCOI formは、Revisedになった論文から出してもらうことにした。Author contributionに関しては、SI-Mから利用できるCRediTを導入し、corresponding authorから全著者のcontributionを系統的に収集する。それに伴い”Guide for Authors”を改訂予定。
 - JEの内容の充実に向けて、レガシーコホート論文（片野田先生リード）、温故知新シリーズ（近藤尚己先生リード）、日本の行政システムに関する論文／最新方法論に関する論文（藤原武男先生リード）が進行中。
 - Paper of the YearとBest Reviewersは、11月上旬に確定予定。
- 7) 国際化推進委員会について井上真奈美委員長より、次の報告があった。
- 韓国疫学会 KSE40周年（2019/9-19-21）に祖父江理事長が参加した。
 - 第30回学術総会のトラベルグラントに4人の応募があり、選考中。
 - IEA-WP Regional Symposium@第30回学術総会において、日本、韓国、中国、豪州、台湾より代表1名ずつ招聘し、IEA-WPに期待する活動などについて発表してもらい、パネルディスカッションを行う。各国からの演者の旅費滞在費（約75万円）を本学会とIEAWPで負担、参加費免除。
 - WCE2020@メルボルンについて、日本疫学会会員向けトラベルアワード（1件10万円、7人程度）と、国際疫学会会員（WP地域）向けトラベルアワード（1件2000ドル、4人で合計8000ドルの半額を本学会で負担）を実施したい。
 - 上記合計約200万円の支出が承認された。
- 8) COI委員会の活動について郡山委員長から、役員、各種委員、刊行物執筆者等の130人から2018年までのCOI自己申告書を提出いただき、委員全員でその内容を確認し、問題がないとの判断をしたと報告があった。
2. 第30回日本疫学会学術総会の準備状況について、中山学会長よりプログラム、広報活動、企業協賛、託児について説明があった。また、演題登録数は、口演発表希望198題、ポスター発表希望197題あり、参加の登録状況は、10月15日時点で、会員：140名、非会員：10名、学生：33名、疫学セミナー：113名、懇親

会：49名であるとの報告があった。

3. 第31回日本疫学会学術総会の準備状況について、田中学会長に代わり祖父江理事長から次の報告があった。
 - 開催日時・場所（決定）：2021年1月27日（水）～1月29日（金）・佐賀市文化会館
 - テーマ（仮決定）：「新たな疫学の展開を求めて」
 - 疫学セミナー（仮決定）：「ゲノムコホート研究における遺伝統計学」
 - 招待講演（仮決定）：ヤニス・ピツラディス教授（ブライトン大学、イギリス）

4. 学会事務局活動および庶務について、西野事務局職員より次の報告があった。
 - 1) 学会事務局活動
 - 5月～9月の入退会：入会者164人、退会者46人、再入会2人（入会者のうち学生62人）
 - 3年未納者へメール・郵送：33人、ゆうちょ銀行払込票再郵送（9月）：560人
 - メルマガの発行（57件）※選挙案内を含む
 - 会員専用サイト改修：会員登録票の改訂、会員登録票と選挙システムとの連携、疫学専門家認定電子システムとの連携
 - ホームページ：疫学専門家認定制度特設サイト開設、更新、リニューアル（スマートフォン対応、SSL化）、更新（事務局から45件、関連団体から43件）、新代議員リスト公開、ニュースレター54号掲載、各種イベントページ作成等
 - 学術総会引き継ぎ@国立がん研究センター（5/28）
 - 理事長ミーティング（Web）：5/14、6/6、7/2、8/6、9/3
 - 委員会等の活動補助：疫学専門家認定制度（チラシ作成・送付、試験問題作成委員・審査委員へ依頼、申請要項作成補助、問い合わせ対応、電子申請システム構築、申請書類確認・審査依頼、資格審査補助、試験問題作成依頼、ブラッシュアップ準備、過去の学術総会講演集PDF化等）、サマーセミナー開催補助、プレセミナー主催者募集・参加募集、トラベル грант募集、科研費管理、ニュースレター編集、選挙実施補助、COI申告書提出依頼・収集・リスト作成、奨励賞選考補助、各種委員会開催補助など）

- 関連団体の対応：IJE 編集委員推薦、AMED フォーラム参加調整、日本医学会・医学会連合対応、日本医師会医学賞・奨励賞候補者推薦、関連学会対応（後援名義使用の承認、アンケート調査回答など）

2) 庶務報告

- 会員数（2019年10月1日現在）
名誉会員：30名、代議員：196名、普通会員：2,214名（合計：2,440名）※普通会員のうち2019年入会学生：93名、海外会員：56名（うち学生6名）
- 年会費納入状況（2019年10月22日現在）
2019年度会費の納入義務のある会員：2,317名
2019年度までの会費納入完了者：1,887名、81%
2年以上（2017年度から）の滞納者：70名

以上